

# 昭和51年を上まわる被害 冷害対策本部を設置

## 異常低温と日照不足で 減収率 30〜35%

今年の稲作は、六月下旬以降の異常低温と日照不足で、昭和五十一年を上まわるかに上まわる減収が予想されています。このため市では、九月九日に農業関係機関と一体で「冷害対策本部」を設置し、被災農家の救済と今後の稲作の安定生産技術の確立を図ることにしました。

今年の稲作は、六月中旬までは気温が高く順調でしたが、稲の最も重要な六月下旬以降は気温が低く日照時間が極めて少ない異常気象のため、当市全域にわたる稲作は、このうち約九八%（三千五百九十八ヘクタール）が冷害の被害を受けています。特に山間部ではほとんどの稲が青立ちの状態となっており、また平担部でも被害が出ています。九月下旬の調査では、平年に比べ稲の減収率は三十%と三十五%という結果が出ており、その被害状況はその後さらに増える見込みです。



### 被災農家の救済対策は

そこで、市では、市議会、農協、農業共済組合などの農業関係機関で「冷害対策本部」を設置しました。

対策本部では、被災農家の救済対策として  
▽天災融資法の適用▽激甚災害の指定▽農作物共済保険金の早期支払と仮払い▽自作農維持資金枠の拡大▽外及び規格外米の全量買入れ▽予約米前渡金の要返納額に算する利子の減免措置▽救済公共土木事業への助成と指導、事業の繰り上げ実施  
▽制度資金の償還期限条件の緩和  
▽異常気象、災害等による水田再編対策事業、調整措置の早期実現を関係機関に要望しました。

また市では、市独自の救済措置として市民税の減免措置を検討しています。

## 多彩な行事を展開 第五回「教育の日」

第五回「教育の日」の行事が九月二十一日市民体育館を主会場に盛大に行われました。

午前九時、矢立小を先頭に市内八小学校のトランペット隊などによる市内パレードで開幕。また、桂城公園内では市内小中学校のプラバンによるマーチングドリルが行われ、約二千人の市民で賑わいました。式典は会場を体育館に移し行われ、午前中を討論集会、記念論文の表彰と発表、午後からは校庭周吉氏による「新しいエネルギー開発」と題した記念講演が行われ、会場に詰めかけた人々は熱心に耳を傾けていました。

## 第五回「教育の日」記念論文 最優秀 古沢三樹夫さん(35)

この論文募集を知り、家へ帰ってさっそく書きはじめたので書きはじめたら原稿用紙五十枚にもなり、これから応募規定枚数の五枚にまとめるのに一苦労翌日の締切にはやっとなまあとて提出しました。

第五回「教育の日」の記念論文最優秀に、「生涯教育に思う」と題した古沢三樹夫さん(雪沢)の論文が選ばれました。

古沢さんは、先月十二日市役所に用事を足しに来たとき



また、「教育の日」のパネル討論会を聞いて「テーマが現実と少しかけ離れているので具体性が無いですね。もっとテーマをしっかりとって、ザックパランに話し合いした方がよい」と思っています。ですから現在の枠にはまっている教育制度には満足していないので、書くことはいっぱいありました。

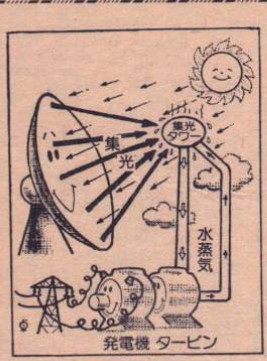


第五回「教育の日」記念論文を募集したところ二十四編の応募作品があり、厳重審査の結果、最優秀論文に古沢三樹夫さんの「生涯教育に思う」が選ばれました。入選された方々は、次のとおりです。

- △最優秀論文▽  
古沢三樹夫さん(雪沢)
- △優秀論文▽  
泉勝衛さん(根下戸)  
川田利知子さん(茂内屋敷)  
高松イタさん(十二所)  
高杉義勝さん(繁沢)  
相沢裕子さん(釈迦内)

## 記念論文 入選者決まる

第五回「教育の日」記念論文を募集したところ二十四編の応募作品があり、厳重審査の結果、最優秀論文に古沢三樹夫さんの「生涯教育に思う」が選ばれました。入選された方々は、次のとおりです。



### 期待される新エネルギー開発

太陽エネルギーは、私たちの生活の中にもまだまだ利用されています。洗たく物の乾燥、ふとん干し、くみ置き水での行水それに温室など……。また、幼い頃には虫ガネで集光して紙に焦げ穴をあける遊びの思い出もあります。紙の発火点は約四百五十度

虫メガネだけでこんなにも高温を出せるわけで、いわゆる反射炉(太陽炉)では三千五百度の超高温に達します。わが国ではこれを利用した出力一キロワットの太陽熱発電装置を香川県に建設中で、来春の運転開始をめざしています。

原理は簡単で、金属のおわん(放物面鏡)で集光してタバコに火をつける「太陽ライタ」を巨大化したようなものと思えばよいでしょう。その熱で高圧水蒸気を発生させ、発電機のタービンを回すわけですが、このおわんが移動する太陽を常に追跡できるよう、日本独特の鏡の配置方法が研究されています。そして五年後には、一キロワットの電気と六十キロワットの熱を生み出す太陽熱利用システムも建設の予定です。

### 無敵の可能性を求めて

九月二十一日を第五回「教育の日」とし、

### 来春には「太陽熱発電」を開始

虫メガネだけでこんなにも高温を出せるわけで、いわゆる反射炉(太陽炉)では三千五百度の超高温に達します。わが国ではこれを利用した出力一キロワットの太陽熱発電装置を香川県に建設中で、来春の運転開始をめざしています。



### 市長の対話

No. 20

冷たい夏から本格的な秋へ……季節の変わり目です。お身体には十分お気を付けてください。

#### 赤い羽根募金に ご理解とご協力を

今年も一日から赤い羽根募金運動が始まりました。人間として人並みに働き、生活したいと精一杯努力をしながらも、不幸にしてその意に反し、恵まれない環境におかれている人々がたくさんおられます。本来ならば、この恵まれない方々の生活を保証することが政治であり、行政でなければならぬと思いますが、それが不十分であります。

募金運動は、そんな社会であってはほしくないと願うことは勿論、市民一人ひとりの恵まれない方々に対する自律を促し、連帯の力で社会を正しくして行こうとするものであると思います。お互いに苦しい生活の中からの善意を求め、お互い、大変なことではありますが、この運動に対する深いご理解とご協力を願っています。

市民体育館を主会場に各種行事を展開、この日の意義、そして教育的環境づくりをPRさせていただきました。

教育は無敵の可能性を招きます。その証拠は「発明工夫展」に如実に現われています。私たちの発想では及びもつかないアイデアが作品のひとつひとつに表現されていました。知識を豊かにすることも結構です。しかしそれだけが教育の全てではありません。毎日の仕事の中から、行動の中から学ばなければならぬことがいっぱいあります。今日と同じ明日であったならば、そこには進歩も前進もありません。今日の反省の中から同じ失敗は再び繰り返さない、してはならない。そこにこそ生きた教育、学が姿勢が生活の中に生きることになろうと思います。そしてその態度が、肌身の実感として子供に引き継がれることになり、無敵の可能性につながるのではないのでしょうか。そんな教育(学)環境、生活環境をつくりあげたいと願っております。

智山健治郎

「カギと声をかけて あきすをとおせんぼ」